TOTO

NEWS RELEASE

企業情報

2025年12月25日

持続可能な社会の実現のために地域に根差した継続的な活動を支援

第21回「TOTO水環境基金」助成先団体を決定

～国内13団体、海外8団体に計3996万円を助成～

TOTO株式会社（本社：福岡県北九州市、社長：田村　信也）は、この度、**第21回「TOTO水環境基金」の助成先団体を決定**しました。

選考の結果、**2026年度は国内13団体、海外8団体の計21団体に助成し、既に活動中の2団体とあわせて、合計23団体のプロジェクト**に支援することとなります。**2005年の設立以来、助成先団体数はのべ353団体に達し**、活動地域は国内45都道府県、海外19カ国に及びます。

助成金額は、通常の拠出額に加え、「TOTO水環境基金」設立20周年を迎えた節目を記念し、**TOTOからの拠出額を1000万円増額。新たに決定した21団体に計3996万円を助成**します。これにより、**助成金額の総額は5億3904万円**となります。

今回の選考では、これまでのグループ社員で構成される選考員による選考に加え、より多くのグループ社員が選考に参加できるようグループ社員によるウェブ投票を実施。約2,800人のグループ社員の投票により追加で国内2団体、海外1団体を選定しました。

TOTOは創立以来「水」に関わる事業を展開してきた企業として、2030年に「持続可能な社会」と「きれいで快適・健康な暮らし」の実現を目指す、共通価値創造戦略　TOTO WILL2030のもと、地域社会の発展と地球環境の保護に貢献する活動を積極的に推進していきます。そして、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」に貢献し、今後も世界で必要とされ続ける会社を目指します。

「TOTO 水環境基金」について

TOTOグループは、持続可能な社会の実現のためには、企業の事業活動による貢献だけでなく、地域を支える団体の活動が欠かせないと考えています。地域を支える団体と協働で社会課題の解決を目指すために、2005年に「TOTO水環境基金」を設立し、地域の水と暮らしの関係を見直す継続的な活動を支援しています。
「地域に根差した活動となりえるか」「一過性の活動ではなく、継続性があるか」を中心に選考を行い、想いを同じくする団体とプロジェクトを実施しています。当基金は助成によって活動を後押しするだけでなく、寄りの事業所のグループ社員が中心となって積極的にボランティア活動に参加する「協働」にも力を入れています。

TOTO水環境基金 TOTO Water Environment Fund　20th ANNIVERSARY

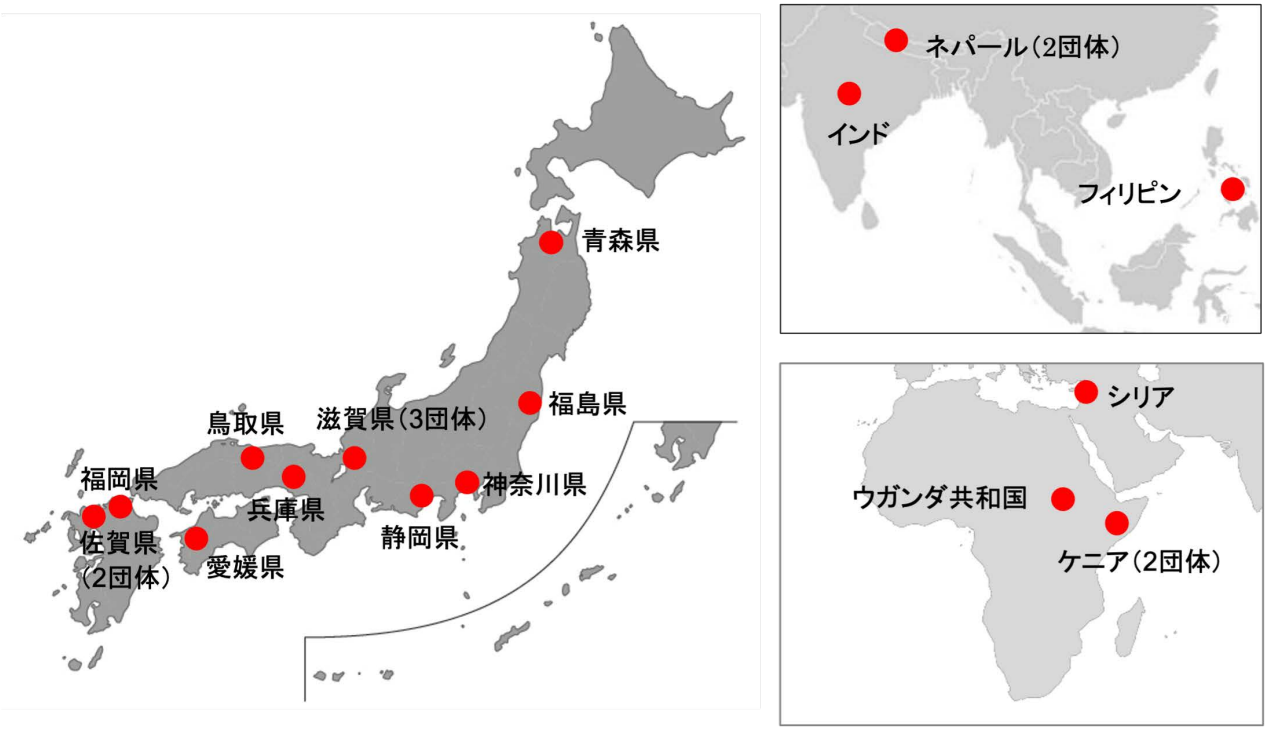
助成先団体の活動の様子　写真：過去の活動の様子

生物観察会の様子（広島県）

活動後の集合写真（神奈川県）

教員への衛生研修（ケニア）

第 21 回「TOTO 水環境基金」助成プロジェクトの活動地



第 21 回「TOTO 水環境基金」助成先団体一覧

	団体名 『プロジェクト名』	活動地域	活動内容
1	NPO法人　白神山地を守る会 『ブナの苗木の育林・植栽と熊対策事業』	青森県	世界遺産地域の外側にある緩衝地帯では、天然記念物であるクマゲラの生息地のブナ林が伐採され、未だ十分に回復されていない。破壊されたブナ林の復元・再生を目指し、ブナ種拾い作業から始まる苗床・育林事業に取り組む。
2	NPO法人　輝く猪苗代湖をつくる県民会議 『令和 8 年度　猪苗代湖漂着水草回収除去事業』	福島県	猪苗代湖の水質悪化の要因となっている水生植物の堆積汚泥化を防ぐため、官民一体となり漂流する藻類を回収・除去する。
3	東京都市大学　ISO委員会 『ビオトープで育む持続可能な地域共生』	神奈川県	大学キャンパス付近にあるビオトープの整備・管理を通じて緑地の価値を地域住民に知ってもらい、訪れてもらうことで環境意識の向上と地域交流イベントの場として活用する。
4	修善の森プロジェクトの会 『修善の森　流域の水といのちを育むホタルの里づくり』	静岡県	源流の森にわずかに自生するゲンジボタルの生息環境維持と個体数増加を目指し、沢筋にビオトープを造成する。里山の環境再生・普及啓発活動を通じて、流域全体の環境改善を図り、森の自然を次世代につなげていく。

	団体名 『プロジェクト名』	活動地域	活動内容
5	NPO法人　愛のまちエコ倶楽部 『びわ湖の水環境を守るせっけん運動を次の世代へ』	滋賀県	1977年のびわ湖赤潮発生の原因となった合成洗剤を生分解性のあるせっけんに切り替える「せっけん運動」を契機に開始された活動。せっけんづくりを継続しながら、びわ湖の水環境の歴史を振り返り・学び・考える環境教育を実施する。
6	おにぐるみの学校 『貴重な環境を生かした自然観察会開催と再整備』	滋賀県	びわ湖湖岸に存在し、貴重な動植物の宝庫となっているビオトープを保全・整備し、自然観察会・学習会の場として活用することによって人々の環境意識の向上を図り、豊かな自然を次世代に引き継いでいく。
7	TANAKAMIこども環境クラブ 『未来へつなぐ田んぼラボ』	滋賀県	子どもたちの自然とのふれあいが希薄となっている中、田んぼをステージとして生き物調査や農業体験を行い、世代間交流を通して生態系への理解や農業の意義を学ぶ。
8	NPO法人　棚田LOVERS 『約20年！小中高大連携！岡部川・棚田の生物多様性保全』	兵庫県	棚田・川を保全する実践活動を通して、環境・食・農・生き物の大切さ、自然とともに生きる豊かさを伝え、感じてもらい、美しい棚田・川を未来の子どもたちにつないでいく。
9	公立鳥取環境大学　学生EMS委員会 『TUES! 学生がつなぐ未来の水環境創造プロジェクト』	鳥取県	学生・教職員・地域住民を巻き込んで鳥取砂丘の海岸清掃を実施し、併せて行う海ごみに関するレクチャーで環境意識の向上を図る。学内のイベントにおいても環境リテラシーの向上を目的とした環境課題のパネル展示等を企画する。
10	NPO法人　森からつづく道 『河野川がもたらす多様な生態系にズームイン！流域の自然を見つめよう』	愛媛県	絶滅危惧種の動植物が多数生息する河野川において、源流～河口までの各ポイントで自然観察会、生き物調査、水辺のごみを回収する活動を併せて実施し、生物多様性について考え、保全の必要性を体感する機会とする。
11	一般社団法人　海の郷 『生きがいを持って山から海にプレゼントを送ろう』	福岡県	山と海のつながりを意識し、竹山や荒れた農地の整備および干潟での海岸清掃を毎月実施する。 また海を浄化する素焼き玉「すやっきい」の作成、設置を地域住民と連携して行い、より美しい海の姿に戻していく。
12	NPO法人　浜一街交流ネット唐津 『藻場再生による水産資源と生物多様性の保全』	佐賀県	水産資源として重要な藻場の消滅が拡大する唐津の海において、原因となる食植生動物の駆除および母藻を投入して海底に付着させることで藻場再生を目指す。定期的にモニタリング調査を行い、地元小中学生を対象とした体験型環境講座を実施する。
13	NPO法人　WeD 『KUP　～Karatsu beach clean UP～』	佐賀県	高校生チームが主催し、SUPを活用した無人島での漂着ゴミの回収や海岸清掃を実施。地元の海の環境を知り、守っていくための意識向上を目指す。
14	認定NPO法人　ウォーターエイドジャパン 『インド・チャッティースガル州の学校における水・衛生改善プロジェクト』	インド	取り残されがちな民族コミュニティの子どもたちが通う学校5校において、清潔な水とトイレを利用し、衛生習慣を実践できるようにする。またその状態が持続できるしくみを構築する。これをモデルとして行政・関係者に示し、活動地全体の学校における水・衛生問題解決に貢献する。

	団体名 『プロジェクト名』	活動地域	活動内容
15	認定NPO法人　ADRA Japan 『ネパールにおいて子どもが広げる持続可能な水衛生環境づくり』	ネパール	現状分析により、衛生観念に関する理解が少ないことが水系感染症の蔓延につながっていることが判明した地域において、まずは公立学校に最低限の衛生施設を建設し、子どもたちが学んだ知識を活かすことができる環境を整える。さらにその子たちがリーダーとなってコミュニティ全体に衛生改善を促す変革の担い手となるしくみの構築を図る。
16	認定NPO法人　グッドネーバーズ・ジャパン 『ドティ郡における持続可能な水資源環境の確保と安全な水供給支援』	ネパール	近郊都市から離れ、インフラ整備が十分でない地域の学校8校に安全な水供給を確保するため、水源の保護・水質検査・灌漑システムの設置を行い、教師等への教育・研修を通じて衛生知識の普及、衛生環境の維持を図る。
17	NPO法人　ゴーシェア 『フィリピン・パンダノン島における、命を支える水環境改善』	フィリピン	経済発展地域から遠く離れ、支援の手が届いていない離島の最貧困エリアにおいて、小学校に貯水タンク・手洗い場およびトイレを新設し、安全な水へのアクセスと衛生環境を大幅に改善する。加えて環境教育の実践アクションとしてマングローブ林の保護活動を行い、島民の命を支えていく。
18	NPO法人　Piece of Syria 『シリアで効果的な水利用を行う灌漑事業と啓発事業』	シリア	内戦により建物・農地・インフラが破壊されたうえ、気候変動により深刻な水不足に陥っている地域において、水資源の効率的活用の技術支援・農家への実践研修・次世代への啓発教育により、避難地からの帰還住民の生計回復と地域社会の自律的復興を促進する。
19	認定NPO法人　コンフロントワールド 『ウガンダ農村部における包括的な水環境改善と自立支援』	ウガンダ共和国	ウガンダ農村部において、主に子どもや貧困層の住民を対象として、水インフラの整備、石鹸生産、衛生教育等を行うことによって、より広範囲の人々の衛生環境の改善を図る包括的な取り組みを実施する。
20	NPO法人　STAND ALIVE 『水と衛生環境の保全のための環境衛生式トイレ普及事業』	ケニア	野外排泄により土壌・水源汚染が深刻な問題となっている農村地において、高床式・し尿を無害化する「エコサントイレ」の普及を促進し、使用・管理方法や衛生知識の啓発を行うことにより、衛生環境改善の維持を目指す。
21	Team NAKUSCO （長崎ケニア住血吸虫症制圧大作戦） 『NAKUSCO Kichocho Project 　～みんなでつくる、水とトイレと村の未来～』	ケニア	感染症専門家たちが、寄生虫感染症の治療や研究を行っている事業地で、病気の原因となっている不衛生な環境の改善および公衆衛生教育を行うことにより、感染リスクを抑え、有病率を低下させる相乗効果を図る。

2026 年度に助成する団体のうち、すでに活動中の 2 団体

	団体名	プロジェクト名	活動地域	助成開始時期
22	古川トンボしらべ隊	古川の水辺環境とトンボ相の保全に資する 普及啓発活動	広島県	第20回 （2025年度）
23	NPO法人　オン・ザ・ロード	沖縄でのビーチクリーンと アップサイクル体験による5R普及活動	沖縄県	第19回 （2024年度）

「TOTO水環境基金」ホームページ

これまでの助成実績や、現在助成中のプロジェクトについて写真を交えて紹介しています。

https://jp.toto.com/company/csr/mizukikin/

共通価値創造戦略　TOTO WILL2030

きれいと快適・健康

環境

人とのつながり

「社会的価値・環境価値」と「経済価値」を同時に実現する共通価値創造戦略 TOTO WILL2030 では、「きれいと快適・健康」「環境」「人とのつながり」を取り組むべき重要課題「マテリアリティ」としてサステナビリティ経営を強化し、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」にも貢献していきます。

https://jp.toto.com/company/profile/philosophy/managementplan